番頭々々と奉つて遣りや佳え氣になりやがつて。番頭か何程豪いのぢやい。汝れ等ア素丁稚の劫經たんや無いかい。コラ能ふ聽け。親の異見さい屁とも思わぬ俺しがナ。汝れ等千萬匹集つてギヤン〳〵吐かしても、蚊が鳴いた程にも思やへんワイ』

『アヽもし、そんな無茶苦茶な……』

『家で充分五月蠅い事吐かして、未だこんな處へまで恥掻かしに來やがる、顏見るのも胸糞が悪い。去ね〳〵、去にやがらんか』

『アヽもし若旦那、そんな手荒い……御番頭はん、早ふ逃げとくなはれ』

『繁八放つとけ、エイ放せちうのに、コラ腐り番頭。去にやがれ〳〵〳〵』

上り口の處までタヽヽヽと押して參ります。

『危險い〳〵』

と云ふてる內に、番頭さんが足を一つ踏み外すなり、ドヽヽヽヽドターン

『ア痛たヽヽヽヽ』

『まア危險い。貴方はん何處もお怪我はムりまへんかいナ』

『アタヽヽヽツ。……ヘエ〳〵有難ふムります。無器用者で怪我一つ能ふ致しまへん』

『そんな物は能ふせん方が宜しムります。併し大した痛みはムりまへんか』

『御親切樣。お蔭で大した事もムりまへん樣で、何しろ氣の短かいお方でおますので、大方こんな事に成らにや宜えがと思ひましてな。下へ降りて貰ふ樣に賴んだのに、無理矢理に二階へ押し上げられましたので、案の定此始末でムります。……ヤツこれは近頃愚痴な事を申しました。夫れでは私は是れでお暇を致します、どうぞ若旦那を宜しふお賴申します、併し餘り晩ふなりますと又家中が心配をせにや成りまへんで、豪ふ更けぬ內にどうぞお歸しを願ふときます。ヘエ夫れでは誰方も御免を蒙ります。豪い御造作をお掛け申しました。』

番頭がスゴ〳〵と表へ出ますと、二階では何か面白いのかワーツと云ふ笑ひ聲

『アヽお若いので無理も無い……が併し彼んな物や無からふと思ふがなア……』

恨めし相に二階を見上げて、其儘トボ〳〵と歸て參ります

『サアもつと大きい器持て來い。碌でも無い奴が來やがつて。折角氣持宜ふ飮でるのに、全然ワヤにして仕舞やがつた。』

『若旦那、彼りや一體何だすね』

『彼れが家の親爺の氣に入りの番頭や』

『怪つ態な人だすなア。大態商人衆の家で番頭とか何とか云われる人が、彼んな融通の利かん樣な事では仕樣がおまへんな。私い等には解りまへんけど、彼んな人は餘まり商ひも上手や無かろふと思